

スイス・イノベーション ～世界のアイデアをつなぐ場所～

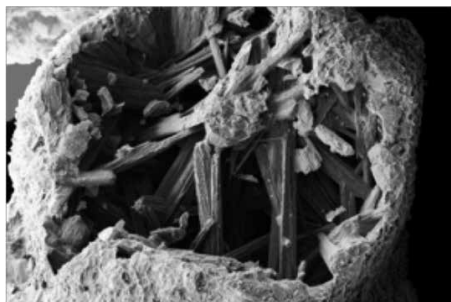
スイス・イノベーション CEO
レイモンド・クロン

2019年8月、スイスに本社を構える再生可能エネルギーのベンチャー企業エナジー・ボールド（Energy Vault）社は、ソフトバンクグループから1億1000万ドルの出資を受けたことを発表しました。2018年に設立されたエナジー・ボールド社は、この分野の先駆的存在で、地形や地盤の特性に依存せず、世界でもトップレベルの費用対効果をもたらす再生可能エネルギー貯蔵システムの開発に成功しました。これは、ソフトバンク・ビジョン・ファンドにとって、エネルギー貯蔵技術分野への初めての投資でした。

エナジー・ボールド社は、インド最大の総合電力会社Tata Power Company Limitedと協力して、イタリア北部で35MWhの貯蔵タワーのプロトタイプを稼働させる準備を進めています。さらに、米国の建設資材メーカーCEMEXやスイスに本社を置くCEMEX Research Group AGとも緊密な提携関係を維持しています。日本のみならず、世界の大手企業が、わずか2年前に設立されたスイスのベンチャー企業がもつ高い可能性に注目しています。そして、これは稀な事例ではなく、むしろスイスにおけるイノベーションでは日常的に起こり得ることです。

スイスは、グローバル・イノベーション・インデックス（Global Innovation Index）において9年連続で世界1位に選ばれています。この名誉ある地位を維持するには、世界中の優秀でアイデア溢れる人材を魅了し続けなくてはなりません。スイスには、手厚い支

最先端製品の基礎となる新素材の研究画像。耐性が強く環境に配慮した新材料の開発のため、分子・原子レベルのナノ構造における機能の分析を行う。



© Daniel Mathys, University of Basel, Swiss Nanoscience Institute (SNI) | Nano Imaging

援体制が整っており、スイス国内で活発に展開する企業、大学、研究機関のR&D活動をグローバルに紹介、連携させることに積極的に取り組んでいます。スイスは、国民1人当たりの特許取得数が世界有数で、2校の連邦工科大学（チューリヒ、ローザンヌ）がそれをリードしています。

2015年設立のスイス・イノベーション（Switzerland Innovation）は、スイス国内に5つのスイス・イノベーション・パークを設け、最先端研究施設、オフィス、会議室、コワーキングスペースからなる20万㎡以上の敷地と、40ヘクタール以上の拡張用地を備えています。設立から今日まで、画期的なヒット製品や技術主導型ソリューションの創出に向けて、才能、知識、専門技術を結びつける中心的存在へと成長を遂げています。スイスの公共部門と民間部門と学術機関が質の高い協力を提供し、以前ならSFの中でしか想像し得なかった技術が、今では現実になりつつあり、イノベーションと研究開発への無限の道を開いています。深部腫瘍に照射する陽子線治療や、低侵襲ロボット誘導レーザー骨刀、イノベティブながん免疫療法など、世界的な難題に対し、企業、スタートアップ、大学がひとつに結集し、先端なソリューションを探索することを目標に、国をあげてグローバル連携を促進しています。

安定した法制度、知的所有権の尊重、優れた教育システムなど、スイスはイノベーションに最適な環境を整備しているとともに、スイス・イノベーション・パーク内で創出される相乗効果により、研究はより推進され、有意義なイノベーション・エコシステムをもたらしています。人々の開放的な気質、産官学の緊密な連携体制、そして優れた研究施設の存在が、スイスの成功の鍵です。

スイス・イノベーション・パークで活動している組織は、ライフサイエンス、コンピューターサイエンス、エネルギー、資源、環境、モビリティ、輸送、製造、素材などの分野で最先端技術とイノベーションを先導し続けています。スイス・イノベーションが世界的な学術パートナーや一流企業との協力を促すエコシステムをつくり上げ、大学や企業が協力して市場性のある

製品とサービスの開発にまい進しています。そしてその成果が、国内外からスイスへのさらなる研究開発投資を生み出し続けています。このエコシステムはスイス全土の大学や研究所と密接な関係を築いていることから、企業はパークを通じて適切な協力相手を探し出し、スイス国内の優れた学術機関、スピノフ、スタートアップを含む企業との直接接触を可能にしています。

パーク・ネットワーク・ウエストEPFL

パーク・ネットワーク・ウエストEPFLは、名声あるスイス連邦工科大学ローザンヌ（EPFL）とスイス西部の専門拠点のネットワークです。この生産的な科学環境は、あらゆる分野での破壊的イノベーションに最適なプラットフォームを提供します。国際的に著名な教授やスピノフとの協力により、大手企業と創造的なスタートアップによる研究開発チームが創出するイノベーションが、製品開発の未来を築いています。

日本の精密部品メーカーであるアドマンド並木精密宝石株式会社は、EPFLの施設内にNamiki Precision of Europeを設立しています。パーク内設立は、大学の専門研究室との連携が容易になり、スタートアップや中小企業の協力が得られるというメリットがあります。現在、同社は医療技術、ナノテクノロジー、新素材の3分野でプロジェクトを進めています。

パーク・チューリヒ

スイス連邦工科大学チューリヒ（ETH）とチューリヒ大学の近隣に立地するパーク・チューリヒは、スイス北東部に研究開発・イノベーション拠点を建設中です。同パークで最初に展開される分野は、ロボット工学・マシンラーニング・モビリティ、宇宙旅行、フィンテック・ブロックチェーン分野を予定しています。

パーク・バーゼル

パーク・バーゼルは、ライフサイエンスにおける世界的企業の周辺に拠点を構えたい研究開発グループに最適な立地で、プラットフォームとインフラを提供します。バーゼル大学病院とバーゼル大学のスピノフ

であるAdvanced Osteotomy Toolsはロボット手術分野の研究に取り組んでおり、レーザー、ロボット工学、ナビゲーションシステムの技術を用いて骨手術を新たなステージに進化させました。

パーク・イノヴァーレ

パーク・イノヴァーレは、大規模で最先端の研究で知られるポール・シェラー研究所（PSI）に隣接する類をみないイノベーションセンターです。PSIの専門技術を基盤に、加速器技術、新素材とプロセス、人間と健康、エネルギー分野におけるイノベーションが製品化を目指して研究されています。

パーク・ビール / ビエンヌ（SIPBB）

パーク・ビール / ビエンヌは、最新生産技術、バッテリー技術、医療技術、スマートファクトリーに関する4つのコンピテンスセンターを擁し、ライフサイエンス、エネルギー・環境・天然資源、製造・素材、コンピューター・情報技術、モビリティ・輸送という5重点分野の研究開発を行っています。中小企業やスタートアップは、パーク内の研究サービスを利用でき、市場性のある製品の開発と実装に向けて支援を受けられます。

日本を代表する電気機器メーカーのファナック株式会社も、SIPBBのスイススマートファクトリー振興協会（SSF）の会員です。50を超えるSSF会員の研究所、大企業、中小企業、およびスタートアップが集結し、SIPBBにおいてインダストリー4.0生産ラインの開発、改良、運用を共同で進めています。

スイスの民間部門は、国外のパートナーとの研究協力に強い関心をもっています。イノベティブな外国のパートナーとの研究開発協力を通じて、中小企業は有益なノウハウの活用が可能になります。スイス・イノベーション・パークは、研究志向の企業が次期製品や高利益製品の開発を目指したり、さらなる発展に必要な技術を探索するのに理想的な場所です。スイスはこのように、世界で最もイノベティブな国という名に恥じない環境を国内のあらゆる場所で提供しているのです。

スイス・イノベーション CEO レイモンド・クロン

長きにわたりスイスの建設・不動産業界でトップマネジメントの職に従事。2004年から4年間スイス連邦民間航空局（FOCA）長官を務めた後、複数のスイス企業の取締役および取締役会長を務める傍ら、2015年にスイス・イノベーションを創設し、CEOに就任。

スイス連邦工科大学チューリヒ（ETH）で土木工学修士号を取得後、同大学BWI Center for Industrial Managementで経済学と経営学を学ぶ。1959年生まれ。

www.switzerland-innovation.com

